

アリモドキゾウムシ情報第1号（サツマイモ）

令和5年4月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

アリモドキゾウムシが静岡県浜松市で発生し緊急防除対応中です 特に静岡県境のほ場では発生状況に注意してください

アリモドキゾウムシは、サツマイモや空心菜等の害虫であり、国内でのまん延を防止する必要がある侵入警戒有害動植物に指定されています。

1 アリモドキゾウムシについて

(1) 形態及び特徴

成虫の体長はおよそ5～7mmで、一見アリに似ています。体色は頭部が黒色、前胸と脚は赤褐色、上翅は光沢が強く、色は黒青色、黒緑色、黒色等様々です。口吻が長く、前方に伸長します（写真1）。

幼虫はイモムシ状で、老齢幼虫の体長は約7～8mmです（写真2）。

(2) 生態

本種は年間を通じイモの中に卵から成虫まで各ステージのものがみられます。

成虫が塊根の露出部や主茎の根際部に傷をつけて産卵します。

幼虫は塊根内部を食害し、食害でできた孔道内で蛹になります。

1世代の生育期間は、奄美大島で夏季が30～40日、秋～冬は著しく長くなるとされています。成虫の寿命は平均4か月で、その間にメスが平均65個産卵します。

(3) 主な被害（サツマイモ）

被害のみられる時期は6月～11月とされています。

幼虫が塊根の内部を食害し、食害のあった場所は孔道になります（写真2）。

被害がひどいと塊根内部全体が孔道になり、黒変して悪臭を放ちます。

被害を受けたイモは、苦みと独特の強い悪臭があり、食用に適さなくなります。

2 分布

国内：沖縄県、奄美群島、トカラ列島、小笠原諸島

※現在、静岡県浜松市で緊急防除対応中

海外：東南アジア、アフリカ、北米、中南米、オーストラリア等

3 寄主植物

サツマイモ、空心菜などのさつまいも属植物、アサガオなどのあさがお属植物、ハマヒルガオなどのひるがお属植物等

4 植物防疫上の位置づけ（侵入警戒有害動植物）

本虫は植物防疫法において侵入警戒有害動植物に指定されています。

このため、本虫が発生している国や地域からの寄主植物の輸入を禁止しているほか、国内の発生地域から他地域への寄主植物の移動が制限されています。

また、まん延する恐れのある場合、強制力をもった強い防除措置（緊急防除）の対象になります。

5 静岡県浜松市での発生について

(1) 発生概要

令和4年10月に浜松市内の一部ほ場でアリモドキゾウムシを発見。

発生範囲を把握するため、トラップを増設し発生状況を調査するとともに、以下のとおり初動対応を実施。

(2) 初動対応

発生確認地点から半径1キロメートルの円で囲まれた地域において、当該地域で生産又は保管された寄主植物の出荷の自粛、当該地域ほ場内に残存する寄主植物（作物残さ、野良いも等）及び残さ置場等にある作物残さの処分等、野生寄主植物の処分等。

(3) 緊急防除

令和5年3月に緊急防除を実施。対象地域は以下のとおり。

【防除区域】

浜松市西区篠原町、坪井町、舞阪町長十新田、舞阪町浜田、舞阪町舞阪、馬郡町、雄踏1丁目、雄踏2丁目、雄踏町字布見、浜松市南区小沢渡町

※発生状況や緊急防除の詳細は農林水産省のウェブページを参照ください。

6 疑わしい虫や被害を見つけた場合

本虫は成虫が歩行で移動しますが飛翔能力を持っています。発生地から愛知・静岡県境までの距離が10 km程度と近いため注意が必要です。

疑わしい虫や被害を見つけた場合は、病害虫防除室（以下の連絡先）までお知らせください。

・連絡先

愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
電話：0561-62-0085（内線 471）

【参考】※写真1及び2は植物防疫所ウェブページより



写真1 アリモドキゾウムシ成虫



写真2 サツマイモを食害する幼虫